

令和4年度学校評価報告書

令和5年3月8日

北海道教育委員会教育長 様

北海道訓子府高等学校長 金森卓紀

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- | |
|---|
| 1 ICTを活用した授業の魅力化に取り組み、自ら学ぶ意欲の向上と進路実現を目指す。 |
| 2 地域との連携を図り、ふるさと教育を積極的に推進する。 |
| 3 【育成すべき資質能力】を身に付けた生徒の育成を目指す。 |

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<p>1 本時の目標の明示、見通しをもった学習と定着についてはおおむね十分であり、生徒の満足度も高い。</p> <p>2 ICTの活用、教科横断的な視点、学習評価、大学等の受験に向けた学習指導には課題がある。</p>	○左記の自己評価、改善方策を含めて、ほぼ適切との評価をいただいた。
改善方策	<p>1 ICTの活用等も含め、教科指導の工夫や授業改善に努め、思考力、判断力、表現力を養うためにも生徒自ら考えを発表したり、まとめたりする活動を意図的に増やすようにしていく。</p> <p>2 地域の教育資源を生かしながら、「総合的な探究の時間」を通じた自己のキャリア形成と進路選択となるよう体系化したものに改善していく。</p> <p>3 学習評価については学力の3観点を適切に評価していくよう引き続き研究していく。</p> <p>4 本校の教育活動全体を通してスクールミッションを達成できるよう絶えず教育課程の改善に努める。</p>	
生徒指導	<p>1 礼儀、言葉、挨拶指導、コミュニケーション能力の向上や生徒の活動の場の提供、いじめの未然防止、教育相談についてはおおむね十分である。</p> <p>2 ネットトラブルの防止指導には課題がある。</p>	○左記の自己評価、改善方策を含めて、ほぼ適切との評価をいただいた。
改善方策	<p>1 生徒の生活態度は概ね良好であるが、より一層定着を図るよう個々の状況に合わせた生徒指導にあたるとともに自己有用感を持たせるよう工夫をする。</p> <p>2 生徒心得の改訂は適宜行っているが、時代にそぐわないものについては、適切な改善に努める。</p> <p>3 SNSによるネットトラブル防止の取組については更に強化する。</p> <p>4 生徒理解を深めるためにアセス、ほっとなどの診断結果を有効に活用していく。</p>	
進路指導	<p>1 進路意識の向上、進路指導の充実についてはおおむね十分である。</p> <p>2 キャリアパスポートの有効活用については課題がある。</p>	○左記の自己評価、改善方策を含めて、ほぼ適切との評価をいただいた。
改善方策	<p>1 各種進路行事が生徒の進路実現に有効に作用しており、なお一層の工夫と充実に努める。</p> <p>2 進路多様校であることから、教員の進路指導の知識・経験が不可欠であるため研修の機会を充実させる。</p> <p>3 インターンシップについては、取組の充実を図っているが、小中と似通った取組となっていることから、取組の工夫を模索する。</p>	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
保健安全 指導	1 生徒の美化意識の高揚や各種講話による健康安全意識の向上はおおむね十分である。 2 いじめの問題については指導を徹底し、いじめの根絶をめざす。	○左記の自己評価、改善方策を含めて、ほぼ適切との評価をいただいた。
改善方策	1 引き続き保健だよりの発行回数を増やし、生徒の健康安全指針を充実させる。 2 いじめのない学校生活を保障するために、継続的で組織的な取組を行うとともに未然防止対策や教育相談業務を適切に行う。 3 来年度は、コロナ感染症の取扱いの変更が予定されているが、感染防止対策については引き続き適切に行っていく。	
信頼される学校づくり	1 生徒・保護者の思いや地域を生かした教育活動についてはおおむね十分である。 2 H P の活用等、本校の魅力や教育活動の発信に課題がある。	○左記の自己評価、改善方策を含めて、ほぼ適切との評価をいただいた。
改善方策	1 アンケートの高評価に答えるためにも生徒や保護者の願いや期待に応える教育活動を一層充実させていく。 2 地域の教育資源を生かした「くねっぶ学」の取組を本年度の反省を生かしながら充実、改善していく。 3 コロナ禍の中、思うように任せない P T A 活動であるが、できることを模索しながら活動を充実させていく。 4 本校の魅力を発信するためにも H P 等の有効活用をする。	
組織運営	1 教職員間の連携、学校評価を活用した学校改善についてはおおむね十分である。 2 スクールミッションの踏まえた教育活動、働き方改革を意識した業務の効率化、教育課程の改善については課題がある。	○左記の自己評価、改善方策を含めて、ほぼ適切との評価をいただいた。
改善方策	1 スクールミッションを根底に据えた教育活動の充実を工夫する。 2 業務の偏りを是正する体制づくりに努める。 3 前例踏襲にこだわらず、P D C A サイクルを意識した業務をより強く意識する。 4 業務の引継ぎを記録として残し、根拠に基づいた業務の遂行を推進する。	
教職員の 資質向上	1 新たな学校課題への対応等に向けての研修についてはおおむね十分である。 2 良好な職場環境づくりや職員間の報告・連絡・相談、サービスの遵守の徹底についてはおおむね十分である。	○左記の自己評価、改善方策を含めて、ほぼ適切との評価をいただいた。
改善方策	1 教職経験をふまえた研修の充実を図る。 2 教育公務員としての心構えを常に意識し、信頼と期待に応えるよう自らの資質向上に励む。 3 教育の端境期であることを意識し、不易と流行を明確にした学校教育を推進する。	
公表方法	学校 W e b ページへの掲載、P T A 役員・学校評議員会で公表および説明	

3 添付資料

(1)令和4年度学校評価評価票（自己評価・学校関係者評価、生徒・保護者アンケート集計）